

## SP4-2 カロリー制限と心筋細胞死

慶應義塾大学老年内科 新村 健

カロリー制限 (CR) のもたらす効果は、寿命延長、抗老化のみならず、臓器・細胞保護効果と多岐にわたる。とりわけ我々は、CRによる心血管保護効果に着目してきた。CR研究の心血管系疾患への臨床応用によって、心血管疾患罹患率減少が達成される可能性は高い。さらに心血管死亡率低下も期待できるだろう。

CRによる心保護作用は、①ストレス応答機転の改善と②心臓老化の遅延に大別される。前者は虚血性心疾患の主な病態、心筋虚血、再灌流傷害からの心筋保護効果に代表され、後者は加齢とともに増大する心肥大、心不全に対する抑制効果として期待されている。これらのCR効果を心筋細胞死の観点から見直すと、CRはapoptosis、autophagy、necrosisといったさまざまな心筋細胞死を制御することで心保護効果を発揮していることが再確認できる。そこで本シンポジウムでは心筋細胞死の視点からCRが心臓に及ぼす効果を整理していきたい。



新村 健 (しんむら けん)

1986年 慶應義塾大学医学部卒業  
慶應義塾大学医学部研修医 内科学  
1988年 浦和市立病院 (現さいたま市立病院) 内科医師  
1990年 慶應義塾大学医学部助手 老年科学  
1993年 慶應義塾大学助手 医学部老年科学  
1996年 大阪大学大学院医学部老年病医学 訪問研究員  
1997年 慶應義塾大学助手 医学部老年科学  
医学博士号取得  
1998年 米国ルイビル大学 内科循環器学 博士研究員  
2001年 慶應義塾大学助手 医学部老年科学  
2003年 慶應義塾大学医学部老年内科 診療科副部長  
2007年 慶應義塾大学医学部専任講師 内科学 (老年内科)  
現在に至る